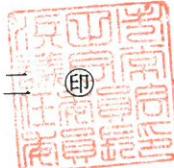


平成 27 年 4 月 30 日

浜田市議会
議長 原田 義則 様

議会広報広聴委員会

委員長 田畠 敬二



委員派遣報告書

下記のとおり、派遣しましたので報告します。

記

1 期間 平成 27 年 4 月 14 日（火）～ 16 日（木）

2 場所及び目的

(1) 東京都日野市

①議場でのプチコンサートについて

(2) 東京都小平市

①議員報告会について

(3) 神奈川県鎌倉市

①議員と語ろうオープンミーティングについて

3 精算額 1人当たり 67,910 円

4 派遣委員名

田畠 敬二

笹田 卓也

足立 豪

柳楽真智子

野藤 薫

布施 賢司

岡本 正友

澁谷 幹雄

牛尾 昭

5 随行 主任主事 田中真佐子

6 調査の概要 別紙報告書のとおり

平成 27 年 4 月 30 日

浜田市議会議長 原田 義則 様

議会広報広聴委員会視察報告書

下記のとおり、視察を行いましたので、その結果を報告いたします。

記

1 期 間 平成 27 年 4 月 14 日 (火) ~4 月 16 日 (木)

2 視 察 先 (1) 東京都日野市

(2) 東京都小平市

(3) 神奈川県鎌倉市

3 参 加 者 議会広報広聴委員会委員

田畠 敬二委員長 ・ 笹田 卓副委員長 ・ 足立 豪 委員

柳楽 真智子 委員 ・ 野藤 薫 委員 ・ 布施 賢司 委員

岡本 正友 委員 ・ 濵谷 幹雄 委員 (副議長) ・ 牛尾 昭 委員

議会事務局 議事係 田中真佐子

4 調査項目

1. 議場でのプチコンサートについて
2. 議会報告会について
3. 議員と語ろうオープンミーティングについて

5 各視察先の調査内容

【東京都日野市議会】

1. 日野市の概要

都心から西に 35km、東京都のほぼ中心部に位置し、多摩川と浅川の清流に恵まれ、湧水を含む台地と緑豊かな丘陵をもつまちである。

日野市は、昔から交通の要衝であったが、現在もまちの発展にそれは繋がっており、甲州街道・川崎街道の二つの街道と JR 中央線・京王線の二つの鉄道が走り、多摩モノレールも通っている。

人口 5 万人で市制を施行したのは昭和 38 年で、現在の人口は 17 万人を超え、まだ増え続けている状況である。

平成 25 年には、市制施行 50 周年の節目を迎えた。

かつては農業中心の宿場町で「多摩の米蔵」といわれていたが、昭和の初めからは大企業の誘致に成功し、工業都市の顔も加わる。

また、戦後は多摩平など大規模団地の進出があり、首都圏の住宅都市として今日に至っている。加えて、「新選組のふるさと」でもある。副長・土方歳三や六番隊長・井上源三郎が生まれ育ったほか、彼らの活動を支えた名主の佐藤彦五郎の屋敷（日野宿本陣）が残されており、例年 5 月には「ひの新選組まつり」も開催されている。

また、国土交通省の「水の郷百選」に認定されている。

面 積	27.53km ² (浜田市の約 1/25)
総 人 口	180,052 人 (浜田市の約 3 倍)
市 の 木	かし
市 の 花	菊
市 の 鳥	かわせみ
所 在 地	日野市神明 1 丁目 12 番地の 1

2. 日野市議会の概要

議員定数	条例定数：24 人
会 派	自由民主党日野市議団（7 名） 民主市民クラブ（5 名） 公明党（5 名） 日本共産党日野市議団（5 名） 無会派（2 名）
常任委員会	企画総務委員会 8 人 民生文教委員会 8 人 環境まちづくり委員会 8 人

議会運営委員会	8人（任期2年）
政務活動費	会派に所属する議員数に対し、月額45,000円／人

3. 観察内容

- ・観察日時 4月15日 9:30～11:00
- ・調査内容（議場でのプチコンサートについて）
会議の冒頭、日野市議会事務局次長 立川 智氏より歓迎のあいさつを受ける。
その後、調査内容の概要説明を受ける。

【概要説明内容】

○議場でのプチコンサート開催に至るまでの経緯

- ・市民の議会への無関心。
- ・投票率の低下。
- ・行政運営、政策への市民の無関心など

○プチコンサート開催の準備等

- ・出演者は原則議員紹介を元に選定（責任所在の明確化）。
- ・会派が4つあるので、出演者は会派ごとに順番に回している。
- ・電子ピアノ、マイク、スピーカーなど、特殊なものは除き、原則議会事務局が準備している。
- ・取組当初から、定例会（年4回）初日に開催している。
- ・コンサート用の議場ではないが、コンサートをするために改修などは特にしていない
- ・事前にリハーサル等は可能で、それも前日や当日の朝されることもある。【事業実施における問題点等】

○謝礼について

- ・出演者に対して、個人だろうが団体だろうが一律20,000円を謝礼として払っているが、それが正当な金額かどうかは判断がつきにくい。

○事業実施中

- ・プチコンサートは、執行部（特に市長）を背にして、議員や傍聴者に向けて行っているが、この形式では市長などにお尻を向けてしまうことになる。
こういう出演方法で、出演者が時々不安になられることがある。
- ・議長は、コンサート中は自席に戻って傍聴する

【その他】

- ・実施することへの市民からの苦情等はない
- ・ほとんどがコンサート目当てに来られるため、コンサートが終了したら定例会を傍聴せずに大半の方が帰られる。
- ・コンサートを傍聴された方へのアンケート調査などは特にしていない。
- ・この事業を行うことで、市民が議場へ来られる機会の一つにはなっていると考えているので、傍聴に目標は特に設定していない。
- ・謝金以外の特別な予算計上はしていない
- ・出演者には、ケーブルテレビからデータをもらい、DVDにて差し上げている。

【感想】

プチコンサート開催という、通常では発想しにくいことに取組んでおられ、市民への議会の役割、必要性を理解していただくための事業実施であると理解している。

多種多様な社会構造への変革の中で、住民における「議会」という役割が低下しつつある今、議会というそのもの自体の認識を住民にしてもらうための工夫は必要である。

その一つとして、プチコンサートの開催であったり、議会報告会であったり、様々な取組が必要と考える。こうした取組を元に、議会の本質である首長提案の議案が住民にとって有益か否かを様々な角度からチェックし、地域経営が問題なく行えるようしたい。議会は、地域経営が行き詰らないようにチェックして、その役割を住民に正しく理解してもらう取組みも当然必要である。

その理解をしてもらううえで、こうした事業を足掛かりに住民にとって必要不可欠な議会を目指すことが浜田市議会においても重要な責務であり、喫緊の課題であるとも考える。



【東京都小平市議会】

1. 市の概要

小平市は東京都の多摩地域にある。江戸時代に玉川上水が開削されたのを機に新田開発が始まり、集落が形成されてきた。地名の由来は 1889 年の 7 村合併の時、中心であった小川村の小と武蔵野台地の平な土地である意味から、小平となった。

平成 26 年の住民基本台帳によると、人口は 186,339 人である。

市内には西武鉄道の四つの路線と JR 武蔵野線が走っており、東京都内への通勤率は 29.1% でベッドタウンとなっている。

農業では、日本でブルーベリーの経済栽培が始まったのが小平市となっており、市を代表する特産品となっている。また、日立製作所を始め、ブリヂストンやルネサス エレクトロニクスなどの事業所も立地している。

2. 議会の概要

議員定数	条例定数：28 人 現員数：27 人
議員任期	～平成 27 年 5 月
正副議長	議 長：浅倉 成樹 副議長：常松 大介
会派制の有無	会派制有り・市議会公明党 6 人・政和会 5 人・フォーラム 小平 5 人・日本共産党小平市議団 4 人・生活者 ネットワーク 3 人・虹とひかり 2 人・みんなの 党小平の会 2 人・志政クラブ 1 人
議会運営委員会	8 人（任期 2 年）
常任委員会 (任期 2 年)	総務委員会 7 人・生活文教委員会 6 人（欠員 1 人） 厚生委員会 7 人・建設委員会 6 人（欠員 1 人）
特別委員会	一般会計予算・特別会計予算・一般会計決算・特別会計決 算・議会改革調査・防災対策調査・まちづくり 調査・議会改革推進・住民投票条例
議会基本条例	平成 26 年 3 月 28 日から施行
議会報告会	平成 22 年 11 月～市民と議会の意見交換会として開始

3. 観察内容

- ・観察日時 4 月 15 日 13:10～15:00
(進行係：議会事務局 柄澤俊彦 氏)
(対応：立花隆一 総務委員長)

市議会委員会室にて、事務局の柄澤事務局次長から、小平市の概要の説明を受け、その後、議会報告会や議会基本条例を積極的に推進された立花総務委員長より挨拶、説明を受ける。※来週より小平市議会議員選挙、立花隆一議員は今期でご勇退との事で、対応して頂けました。

①議会報告会について

先進地の議会を視察し、小平市は平成26年3月28日に議会基本条例を施行、同年6月、11月に議会報告会を開催した。

四つの会場で、4常任委員会ごとにテーマを決め意見交換をした。

常任委員会ごとにテーマを決め、事前の勉強会を行う事により、議員の意識が上がり、各委員会が切磋琢磨する事になった。

議員が勉強し、市民との意見交換を行う事により、結果的に政策提案、立案になる。

【質疑応答】

Q：浜田市でも、年一回以上としているが、5月の報告会は予算がらみの報告や質問になる。秋にも意見交換をメインにする方向だ、委員会ごとのメリットなど具体的には？

A：委員会ごとの意見交換会、最初は行政に対するクレームが多く、建設的な意見交換が出来なかった。各常任委員会で議員が勉強して、委員会ごとの競争意識になった。説明は30分、意見交換90分と活発になった。

Q：全協等で、統一テーマにという意見や協議は無かったのか？

A：小平市では全協はあまり開かれないし、非公開です。

地域性かもしれないが、他の委員会も非公開で保守的だと思う。

Q：浜田市は全て公開しているが。

A：東京都の中で過疎地域だったこの地域は、これからも開発が進み、人口が増える。保守的な地域性も変わる。基本条例も作り、意見交換も始まった。全て公開し話し合いの下で進んで行くべきだと思う。

Q：各会場に同じ人が来る事は有るのか？

A：市民の議会ウォッチングの会があり、ウィークデーの夜は参加者が多い。

テーマ設定により関係する多様な人が来る。テーマは大事だ。

常任委員会でテーマを決めるが、勉強会をする事により、委員会に一体感が生まれる。

Q：報告会の周知方法は？

A：議員個人がチラシやポスター、旗を作り街宣活動をして声掛けをしている。今後はSNSなども利用したい。

【まとめ】

今回の視察は議会基本条例を最近制定された議会を視察した。

一年に複数回報告会をされている小平市は、市民との意見交換を重要視し、常任委員会ごとにテーマを決めて、新たな政策や条例につながるように議員個人のスキルアップを図っている。

保守的な地域だと、謙遜されていたが、より多くの市民との意見交換を通じて、自らも資質を上げていく努力が伺えた。

市議会議員選挙の前にもかかわらず、ご対応頂いた議会事務局や、市議会の立花隆一総務委員長に感謝を申し上げます。



【神奈川県鎌倉市議会】

1. 鎌倉市の概要

鎌倉市は人口 173,228 人（4月 1 日現在）、面積は 39.53 km²で、横浜市・藤沢市・逗子市に隣接し、南は相模湾に面している。三方を低い山に囲まれ海に面する地であり、かつては幕府が置かれ政権の要の地であった。

現在は商工業都市であり、東京や横浜のベットタウンとなっている。気候温暖で豊かな自然と歴史的遺産を抱える古都であり、静閑な住宅都市である。

2. 議会の概要

議員定数	条例定数：26 人 現員数：26 人
議員任期	平成 25 年 5 月 15 日～平成 29 年 5 月 14 日
正副議長	議長 中村 聰一郎 副議長 前川 綾子
会派制の有無	・ 鎌倉夢プロジェクトの会 4 人・みんなの鎌倉 4 人 ・ 公明党鎌倉市議会議員団 3 人・鎌倉みらい 3 人 ・ 新・草莽の会 3 人・日本共産党鎌倉市議会議員団 2 人 ・ 神奈川ネットワーク運動・鎌倉 2 人・無会派 5 人
議会運営委員会	10 人（任期：議員の任期が終了するまで）
常任委員会 (任期 2 年)	・ 総務委員会 7 人・教育こどもみらい委員会 6 人・ 観光厚生委員会 6 人・建設常任委員会 7 人（任期 1 年）
特別委員会	議会広報委員会 各会派から 1 人

3. 観察内容

- ・ 観察日時 4 月 16 日（木）9：30～11：30
- ・ 観察会場 鎌倉市議会 会議室

冒頭に中村聰一郎議長より歓迎の挨拶を受ける。

その後、山田直人議員からオープンミーティングについて下記のような説明を受けた。

平成 25 年の議会改選前から、市民に開かれた議会を目指すため、議会基本条例の制定に向けて取組を開始。10 月に「議会基本条例の制定に関する調査特別委員会」を設置した。

議会基本条例の制定にあたり、条例案に対する市民意見の公募（パブリックコメント）と

は別に、「市民と議会との関係」のあり方について意見を聞くため、「ワールド・カフェ」の手法を応用し「議員と語ろう！オープンミーティング」を開催した。1会場1テーマとし2日間にわたり5会場で実施。

広報は、議会ホームページ（フェイスブックも活用）・議会だより・市報・市の施設や、市の広報版へポスター掲示・議員による駅頭でのチラシ配布など、様々な広報手段を用いた。ファシリテータとして、法政大学大学院講師の牧瀬氏に参加してもらい、牧瀬ゼミの大学生にテーブル・ホストを担当してもらった。各テーブルに議員が入り、場合によっては補佐として市職員も参加した。最後に各テーブルごとに意見発表を行った。

まだ正式な議会報告会は行っていないが、今後は2時間の報告会の内、半分を新年度予算の説明と質疑、残りをオープンミーティング形式で行う予定である。

議会にとっても、議員個人にとってもトレーニングの場となったように思う。

委員からの質問

- ・このような手法は牧瀬氏からの提案だったのか。
- ・莫大な意見が出されているが、今後どのように繋げていくのか。
- ・テーブルに市職員が入ることの、メリットとデメリットは。
- ・会場は分割された部屋で行うのがいいのか、おなじ部屋でおこなうのがいいのか。
- ・議会事務局の協力も大きかったのでは。
- ・若者参加についての取組は。
- ・各会場の定員は設けられなかったのか。

市民の皆さんとテーブルを囲み意見交換を行うことは、とても大切なことだと感じた。ファシリテータやテーブル・ホストによって、感情的にならずにお互いの思いを伝えて、より良い方向性が生み出せれば、更なる発展へ繋がると思う。

地域性の違いはあるが、浜田市に合った手法で取り入れてみたいと考える。

